

花きの県別生産出荷概況(3月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	3月出荷見込み 千本		主産地	3月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
小ぎく	沖縄県	58 (85%)	金秀 沖のくがに みさき つばさ 沖の紅寿 春の美々	28,803 (80%)	10,080 (80%)	糸満市 うるま市 八重瀬町 沖縄市 名護市	30	40	30
トルコぎきょう	群馬県	4.5 (97%)	エスプリライトピンク プロポーズ ボヤージュシリーズ	80 (97%)	70 (97%)	邑楽館林	30	30	40
	静岡県		レイナホワイト ボレロホワイト セレブピンク 海ほのか	450 (95%)	300 (95%)	JA大井川 JAハイナン JA静岡市 JA遠州中央	35	35	30
	熊本県	22.3 (104%)	ミヨシ系 サカタ系 八江系など	424 (120%)	233 (110%)	熊本市 菊池 八代 球磨など	30	41	29
	大分県	6 (100%)	レイナホワイト 海ほのか 他品種	100 (100%)	50 (100%)	玖珠九重 佐伯 豊後高田 他県内産地	30	30	40
	宮崎県	2.9 (104%)	ボレロホワイト ダイヤモンドビーチ	100 (121%)	— —	宮崎中央 串間市大東	20	40	40
バラ	茨城県	11 (98%)	サムライ、ワム、アバランチエ、 ローテローゼ、パレオ、 ノブレス、パリ他	450	300	石岡市 土浦市 かすみがうら市 つくば市 他	20	35	45
	群馬県	15.2 (99%)	アヴァランジェ サムライ 他	560 (99%)	480 (99%)	前橋市 甘楽富岡	30	30	40
	山梨県	3.8 (100%)	ローテローゼ サムライ 等	200 (100%)	180 (100%)	笛吹市(御坂町)	30	35	35
	静岡県		サムライ アヴァランチエ ゴールドラッシュ シンディ	1,600 (100%)	120 (100%)	JA掛川市 JA大井川 JAしみず JA遠州夢咲	30	35	35
	愛知県		サムライ08 レッドスター アヴァランチエ シンディ フレアー 他	2,700 (97%)	1,100	愛知みなみ ひまわり 豊橋 西三河	30	33	37
	大分県	8 (100%)	Mシリーズ Jシリーズ その他各品種	250 (100%)	70 (88%)	玖珠九重 山香 九重町飯田	30	35	35



品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小ぎく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は前年度より2割程度作付が減少して、平年並みとなっている。配色割合は、黄：白：赤＝41：27：32となっている。</li> </ul>	<p><b>現 状</b> 2月上旬・中旬に関しては特別大きな需要がなく、天候面でも大雪となる展開もあり厳しい販売が続いた。中旬辺りからは、白小ぎくの出荷量が減り、引き合いが強まる。月の後半は、全体的に出荷量が落ち着き月末需要などがあるため、徐々にではあるが引き合いは強まっていく。</p> <p><b>見通し</b></p>
		<p>大田花き 彼岸需要中心の動きで、需要期に向けて徐々に引き合い強まっていき、価格帯も需要期前後上位等級で50円前後の取引となる見込み。</p> <p>FAJ 彼岸に向け沖縄本格出荷。まとまった入荷が予想される。</p>
		<p>東日本板橋花き 彼岸需要中心、例年並みの入荷。 @45～30</p> <p>世田谷花き 沖縄産中心で入荷増える。中旬以降の動きに期待。</p> <p>第一花き</p>
トルコぎきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は順調であり、作付け面積も概ね前年並みなことから、前年及び平年並みの出荷量を見込む。</li> </ul>	<p><b>現 状</b> 国産に関して、静岡は例年並みの出荷となっているが、白とピンク中心の荷姿。熊本、長崎に関しては引き続き上位中心の荷姿であるが、入荷は微減の状況。台湾産は徐々に入荷増えてきているが、相場は例年並みとなった。</p> <p><b>見通し</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前進出荷で2月は少ない産地もあるが、全体的には横ばい傾向の見込み。3月については、品種にもよるが例年並みの出荷となる見込み。</li> </ul>	<p>大田花き 国産は入荷微増の状況で、静岡、熊本中心の荷姿。台湾産も数量増えてくるため、品質を見極めて販売していく見通しとなる。</p> <p>FAJ 彼岸需要で取引活発になる。紫など中心に高値相場で推移する見込み。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね生育順調だが、2月に入ってから曇天の影響で一部プラスチック等が散見される。出荷量は作付けを増加している産地があるため、昨年より増加し、3月中旬頃から各産地の出荷が出揃う見込み。</li> </ul>	<p>東日本板橋花き 3月は遅れがあったものの入荷があるため、潤沢な入荷になる見込み。</p> <p>世田谷花き 熊本からの入荷が増えはじめ、各色潤沢。</p> <p>第一花き</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地生育問題なく、3月は山谷なく安定した出荷見込み。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月中旬の天候不順により品種によっては若干生育遅れ気味のものもあるが、目立った病害虫の発生もなく、ボリュームもしっかりしている。今後、需要期に間に合うようしっかり管理していく。</li> </ul>	
バラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品質はほぼ平年並みの見込み。</li> </ul>	<p><b>現 状</b> 国産産地は経費高騰のため、無理に温度を確保することなく、非常に少ない。一部の店舗で盛り上がりはあったものの、フラワーバレンタインも大きな需要とならず。輸入品は価格が高く、入荷量は各商社ともに少なめ。</p> <p><b>見通し</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は順調であり、気温上昇に伴い出荷量は増加傾向となる。</li> <li>・3月の出荷量は概ね前年並みの見込み。</li> </ul>	<p>大田花き 国産産地は重油高騰のため、1月～2月に温度を確保していないので、例年より遅れそうな雰囲気がある。昨年、価格低迷のため、輸入商社も大きな入荷は見込んでいない。</p> <p>FAJ 需要期に入り、徐々に数量増加の見込みも燃料高く、国産は昨年並み程度。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は概ね順調。</li> </ul>	<p>東日本板橋花き 卒業式、年度末需要で引き合い強まる。入荷量は重油高騰の影響で減少傾向。</p> <p>世田谷花き 入荷量も徐々に増え、引き合い強い見込み。卒業式、年度末の動きに期待。</p> <p>第一花き</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者は減少しているものの、コストをかけ生産性を向上させているため、出荷量は例年並み。3月はプライダルなどの需要時期に合わせて出荷体制をしていく。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の減少や作付面積の減少により、3月全体の出荷量は昨年をやや下回る見込み。</li> <li>・重油が高騰していることで例年のように加温できていない生産者も見られるが(一部ではあるが)、3月に入り気温が上昇してくるとともに出荷量は増えてくると思われる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月気温回復、日照回復により3月中旬にかけ上位等級も増え、出荷量は増加となる見込み。</li> </ul>	

アルストロメリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育は、最低温度10～13℃程度で加温管理が行われていることから、概ね順調に推移している。</li> <li>3月の出荷量は、一部で燃油高騰の影響で加温設定温度を例年より下げた施設があることと、作付面積が前年よりやや減少していることから前年の90%程度と見込まれる。</li> <li>燃油高騰に対応するために、従前の石油暖房機からの暖房から、ヒートポンプと石油暖房機を利用したハイブリッド暖房方式の施設がやや増加してきていることから、灰色かび病の発生は少なくなり、切花品質は良好である。</li> </ul>	<b>現状</b> 上旬に気温が上がったことから、各産地数量は増加傾向となったが、中旬の降雪の影響から小売の需要が伸びず、安値での相場展開となった。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>加温温度を低く抑えているため、出荷量は若干少なめの見込み。</li> </ul>	<b>見通し</b> 日長が長くなっていくことから、気温上昇とともに愛知、長野、茨城で数量は増加してくる見込み。中旬の彼岸需要から引き合いが強くなり、やや強めの相場展開となる見込み。 830,000本 @70 FAJ 気温の上昇とともに出荷量徐々に増加。繁忙期に向けて取引活発に。
		東日本板橋花き 愛知、青森、福島中心の入荷、彼岸需要などの動きがある。 世田谷花き 増量見込み、引き合いも見込める。 第一花き
ストック	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月下旬から2月3日までの気温上昇により生育が進んだが、その後の低温で再び停滞している。2月8日の暴風雪により、一部で施設に被害がでたが、出荷量・品質には影響ない。3月の出荷量は平年並みを見込む。</li> </ul>	<b>現状</b> 気温の上昇を受け、上旬は数量多く価格面では低迷した状況。その後、冷え込みの影響を受け数量減少し、価格面では回復。需要面では落ち着いた動きはあるが、葬儀需要中心の動きとなった。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月14日の雪で勝浦市、大多喜町で一部のパイプハウスが倒壊する被害を受けたため、出荷量は前年より2割程度減の見込み。</li> </ul>	<b>見通し</b> 露地もの、ハウスものともに2月の冷え込み等の影響も若干あるが、数量は徐々にでてくる見込み。需要では、彼岸需要中心に活発な取引が見込まれる。
		FAJ 2月の大雪、低温で出荷サイクル乱れ、入荷量読めない状況。
		世田谷花き 気温の上昇とともに入荷は潤沢となる。下旬には価格も落ち着きそう。 第一花き